

# 2016年度 政治外交史Ⅰ 最終試験講評

今回の問題文は下記の通りでした。

〔問題〕

1910年代の国際社会における激変を2つとりあげ、それらが日本外交に及ぼした影響について、講義の内容をふまえつつ、300字以上で論ぜよ。

〔注意事項〕

◇解答は300字以上（解答用紙で10行以上・用紙の点線部分より下まで）記すこと。この条件を満たさない答案是採点の対象としない。

◇解答の分量が合計900字を超えるときは、答案用紙の裏面に続きを書き、1890字を超えるときは挙手して2枚目の答案用紙を受け取ること。

◇この問題用紙は持ち帰ること。

## 1. 採点講評

今回は、例年に較べると、ややトリッキーな問題でした。すなわち問題文にある「国際社会に置ける激変」が具体的に何を指すのかにつき、まず解答者が定義をする必要があったためです。

出題側としては「中国における辛亥革命（清朝の崩潰）」「第1次世界大戦」「ロシア革命」「パリ講和会議と新外交、のはじまり」などを想定しており、それらのうち、どの2つを選んで解答しても構いませんでした。よってどの事件を選んでも（さらに別の事件をとりあげても、それが1910年代に起きたものであるかぎり）、減点はしませんでした。

採点結果は下記の通りで、例年になく高水準となりました。受験者の半数以上がS評価というのは、私自身の記憶にもありません。この点は率直に、今年度の受講者の努力を評価したいと思います。

## 2. 成績分布

①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布

S：39.1% A：0.0% B：8.7% C：8.7% X：13.0% F：30.4%

②最終試験受験者における成績分布

S：56.3% A：0.0% B：12.5% C：12.5% X：18.8%

## 3. 解答例

次ページを参照してください。ただし、あくまで「解答例」ですので、この通りに書かなければいけないわけではありません。もし自分の解答について、個別にコメントしてほしいという人がいましたら、私の方までメールで連絡してください。

1. 辛亥革命と第1次世界大戦

1910年代の国際社会に生じた激変としては、上記の辛亥革命などの他、ロシア革命やパリ講和会議に伴う「新外交」のはじまりなどが考えられる。しかしここでは、辛亥革命と第1次世界大戦が、当時の日本外交に及ぼした影響について論じることにした。

2. 辛亥革命について

1911年10月に勃発した辛亥革命は、2000年におよぶ中華帝国の歴史に終止符をうち、新たな国内分裂の種をまくことになった。すなわち、広東に、孫文を中心とする国民政府が誕生すると同時に、北京には袁世凱とその後継者たちによる北京政権が生まれ、相互に抗争を始めたからである。当時の日本は南満洲地方を中心にさまざまな権益を保持しており、この中国における動乱に深刻な懸念を抱いていた。しかし、第2次大隈内閣や寺内正毅内閣、原敬内閣などは、この混乱に一定の方針をもって望むことができなかった。たとえば第2次大隈内閣は、袁世凱政権に対して対華21か条要求を突きつけ、中国国民の強烈な反撥を受けた。続く寺内正毅内閣は、段祺瑞の支援をおこなうこととし、西原借款の提供をはかったが、国内外からの反発を受けてこれも失敗に終わった。さらに原内閣は対中不干涉・南北統一政策を採用したが、これも南北統一会議の決裂により、北方派援助を続けざるを得なくなった。このように辛亥革命は、日本の対中政策の混乱（破綻）をもたらし、その後の日中関係に深刻な傷痕を残すことになった。

3. 第1次世界大戦

人類初の総力戦と呼ばれる第1次世界大戦は、1914年7月にはじまった。当時の日本は第2次大隈内閣の時代であり、副総理格の外相外相加藤高明は、元老の慎重論を押し切って参戦を閣議決定した。そして中国の山東半島に出兵し、ドイツの租借地であつた膠州湾を陥落させたほか、ドイツ南洋諸島に海軍を派遣し、これらを軍事占領した。さらに中国からヨーロッパ列強の勢力が退潮するのに乗じ、1915年1月に「対華21か条要求」を突きつけた。これらの動きは、中国のみならずアメリカなどの反撥を招き、1919年1月のパリ講和

学籍番号	氏名	平常点	試験点	裁量点	総点

会議などで、日本が他の参加国から強い警戒心をいだかれることにもつなげた。

#### 4. まとめ

1900年代の日本は、日英同盟や日露協約などを機軸として、欧米諸列強との協調外交を築き上げることに成功していた。それを象徴するのが、幕末以来の懸案であった不平等条約の完全撤廃である。ところが1910年代の、上記のふたつの激変への対応は、日本に対する諸外国の反撥と警戒を呼び起こし、1920年以降の日本外交を困難に陥れる結果となった。

以上